

肢体不自由の状況及び所見

4. 関節可動域(ROM)と筋力テスト(MMT): この図表は障害認定を要する部位について記入すること

()筋力テスト

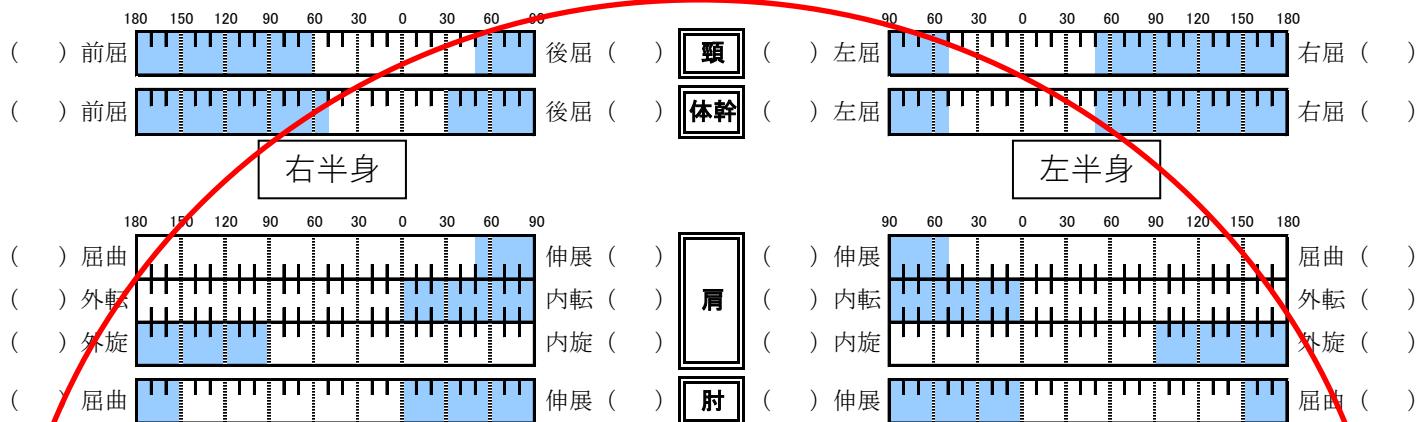
関節可動域

筋力テスト()

()筋力テスト

関節可動域

筋力テスト()



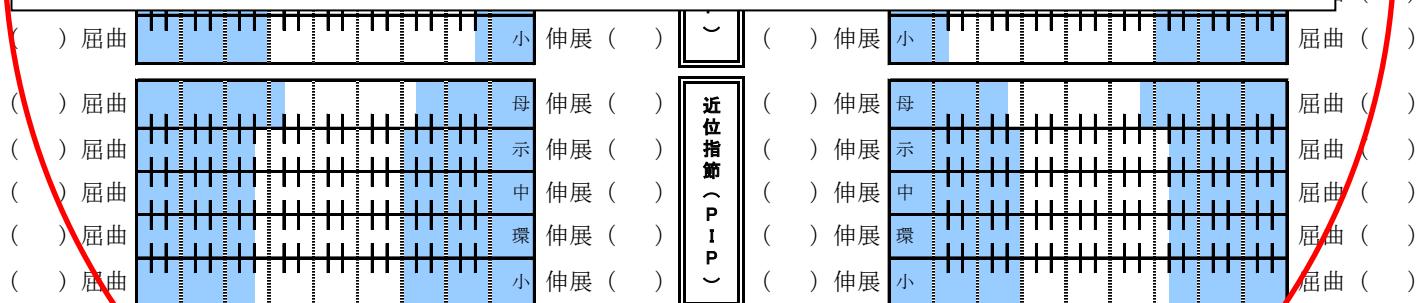
※肢体不自由の認定は、関節可動域テスト(ROM)と筋力テスト(MMT)と活動能力を重視します。

申請する部位については、必ず記載が必要です。(切断は除く)

※測定が困難な場合は、その理由を備考に記載してください。

※○や△が読み取りにくい場合があります。はっきりと記載してください。

※関節可動域に制限が無く、記載を省略する場合は備考欄等に「関節可動域制限無し」と記載してください。



※脳血管疾患の場合は必ず記載してください。↓

備考

※意識障害がある場合は必ず記載してください。→

※意識障害の状況(JCS・GCS)

※脳血管疾患におけるBurunstrom Stage

右手指	右上肢	右下肢
左手指	左上肢	左下肢

関節可動域(ROM)

- ①関節可動域は、他動的可動域を原則とします。
- ②関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とします。
- ③関節可動域の図示は、のように両端に太線を引き、その間を矢印で結びます。
強直の場合は、強直肢位に波線(《 》)を引きます。

筋力テスト(MMT)

- ①筋力テストについては、表()内に○、△、×印を記載して下さい。

○: 筋力正常・やや減

△: 筋力半減

×: 筋力著減・消失

徒手筋力テスト	
正常	5
やや減	4
半減	3
著減	2
消失	1
	0